

2.2 応急手当の意義とその基本

はじめに

学習指導要領にどのように書かれているかを確認することから始めます。この単元は学習指導要領上の位置づけとしては、

オ 応急手当	(ア) 応急手当の意義
--------	-------------

の内容に該当します。

指導要領解説には、

適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることを理解できるようにする。また、自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度を養うことが必要であることを理解できるようにする。

内容の取扱いでは

(1) のオについては、実習を行うものとし、呼吸器系及び循環器系の機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする。また、効果的な指導を行うため、「体育」の(D水泳)などとの関連を図るように配慮するものとする。

と書かれています。

【理解できるようにすること】

- 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすること。
- ※自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるために
- 一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けること。
- 自ら進んで行う態度を養うことが必要であること。

授業づくりの実際（指導と評価の一体化を意識して）

内容の取扱いの(8)には、指導に際しては、知識を活用する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行うものとする。となっています。これは、「保健」の指導に当たっては、知識の習得を重視した上で、知識を活用する学習活動を積極的に行うことにより、思考力・判断力等を育成していくことを示したものである。指導に当たっては、ディスカッション、ブレインストーミング、ロールプレイング（役割演技法）、実習や実験、課題学習などを取り入れること、地域や学校の実情に応じて養護教諭や栄養教諭、学校栄養職員など専門性を有する教職員等の参加・協力を推進することなど多様な指導方法の工夫を行うよう配慮することを示したものです。

実習を取り入れる際には、応急手当の意義や手順など、当該する指導内容を理解できるようにすることに留意する必要がある。

《例示》

【知識・理解】→指導方法と評価方法の検討

- 応急手当の意義について
- 応急手当の手順について
 - ・安全の確認
 - ・反応の確認
 - ・呼吸の確認
- 救急車の呼び方

【技能】→指導方法と評価方法の検討

- 応急手当の手順に従って、人体人形を使って、実技を行う（心肺蘇生を行う前まで）
 - 安全の確認（安全の確認し、二次災害が予想される場合には、安全な場所に運搬する）
 - 反応の確認（呼びかけ、反応がない場合には、救援の依頼、AEDの手配、119番通報）
 - 呼吸の確認（呼吸あり→気道確保や回復体位 呼吸なし→心肺蘇生法＝ここでは実施しない。）
- 救急車の呼び方（2人一組になり、交互に実施）

【思考・判断】→指導方法と評価方法の検討

- わが国において、誰もが進んで応急手当ができるようにするためにはどのようなことが必要だろうか。グループで考えてみよう。

【関心・意欲・態度】→評価方法の検討

- 今日の学習のどの場面でどのように評価するか。

上記の指導方法や評価方法を念頭に、指導内容の順序や発問の仕方、知識を活用する学習活動の取り入れ方などを工夫し、1時間の授業を組み立てていきます。

本単元のキーワード

「応急手当」「AED」「回復体位」「気道確保」「救急車の呼び方」